

視察研修報告書

岩手県紫波町（10月18日）

①肝炎対策について

★肝炎患者会（いわて肝友ネット）

◎肝炎患者会の現状と活動について

【発足経緯】

- ・H9年～H13年の死亡原因を調査した結果、紫波町は県内で肝・肝内管の悪性新生物による死亡率が県内で一番高い事が判明した。
- ・慢性C型肝炎は肝硬変や肝臓がんに進行する確率が高く、決め手となる治療法がまだないため、病気への正しい理解を深め、ともに支え合いながら闘病生活を送るのが目
- ・肝炎の実態は、不明な点も多く、誤った情報から一人悩む患者も少なくない事から肝炎に苦しむ人たちの少しでも力になりたい
- ・医師会長や製薬会社の協力もあり、地方紙に大きく取り上げられた。
- ・平成13年「紫波肝臓友の会」として発足したが、県内外からの会員が増加したため名称を「いわて肝友ネット」と改める。

【現況】

●会員の推移（会費納入者数、年度末）

2001年（平成13年）設立	2006年（平成18年）	123名	
2002年（平成14年）	105名	2007年（平成19年）	112名
2003年（平成15年）	118名	2008年（平成20年）	168名
2004年（平成16年）	114名	2009年（平成21年）	160名
2005年（平成17年）	110名	2010年（平成22年）	159名

●男女比（平成23年4月現在）（遺族、会費未納者含）

男性 64名、女性 101名

●病気の種類（遺族、会費未納者含）

C型肝炎：151名 B型肝炎：13名 その他：1名

●県、市町村別（遺族、会費未納者含）

盛岡市 30名、紫波町 29名、一関市 13名、北上市10名、宮古市7名、花巻市7名、奥州市 6名、八幡平市、矢巾町、滝沢村、4名 釜石市、遠野市、田野畑村3名 大船渡市、二戸市、岩手町、洋野町、久慈市、大槌町、2名 陸前高田市、軽米町、金ヶ崎町、岩泉町、山田町、雫石町 1名

青森県 八戸市10名、十和田市4名、青森市3名、五戸町2名、弘前市、黒石市、三沢市、南部町、東北町、おいらせ町1名 宮城県1名 静岡県1名

●年代別 113名（昨年のアンケートから）

40代以下 6名（5%）、50代 14名（12%）、60代 43名（38%）、70代 44名（39%）80代 6名（5%）

【活動と会の役割】

●主な活動

肝臓病講演会：医大、県立大学から講師を招いて講演

個別相談会：専門医による肝臓病相談会

会員懇親会：患者同士の情報交換

会報発行：肝臓病の医療情報、会員の紹介など

●会の役割

- ・患者が病気に負けないで前向きに治療に向かえるようにする。
- ・患者自身が病気を正しく理解する。
- ・病気や治療法などの情報の提供。
- ・患者同士の励まし合い、支え合う。
- ・病気を克服するための療養条件をつくりだす。

【国会請願署名の取組】

●平成22年の取組み

昨年5月25日に請願行動を実施しました。国会の混乱などから審議未了となりましたが、その後の肝炎対策推進協議会や国会議員要請行動などへの大きな力となりました。

平成22年国会請願署名 会員116名2,603筆（会員1,580、NTT労組1,023）

●平成23年の取組み

今年の国会請願署名は肝炎対策基本指針で実現しなかった「肝硬変・肝がん患者への医療費助成」に重点を置いた請願署名を実施しました。東日本大震災のため沿岸部以外の会員だけで取り組み、署名数は減りましたが多くの会員で取り組みました。現在、国会情勢が不安定であり請願時期を検討中です。

平成23年国会請願署名 会員102名1,667筆（会員958、NTT労組709）

【平成23年度の主な事業】

- (1) 肝友ネット総会の開催
- (2) 会員懇談会・相談会の開催
- (3) 医療講演会の開催・共催
- (4) 国や行政に対する肝炎対策の要請、委員会などへの参加
- (5) 全国交流会・他県患者会との交流
- (6) 薬害・B型肝炎患者などへの支援、弁護団・原告団との連携
- (7) 電話などでの療養相談、アンケートへの対応
- (8) 会報の発行。最新情報の提供、会員の声を掲載。
ブログを活用した意見の発信
- (9) 幹事会開催、個々の事業についての相談



紫波城山公園にて

肝友ネット会長より紫波町について説明を受ける



野村胡堂・あらえびす記念館にて

肝友ネット会長より「いわて肝友ネット」について説明を受ける